
BLOOD NIGHT

牙霊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

B L O O D N I G H T

【Nコード】

N 0 4 5 8 W

【作者名】

牙霊

【あらすじ】

初作品です。

何でもない普通の高校生が学校の「5不思議」に立ち向かう、ちょっぴりホラー？な連載小説…どれだけ続くのかな。

呪縛ゼロ…全テノ始まり（前書き）

作者の一言…初めまして、牙霊と申します。

今回、小説を書くことを趣味に加えたのですが…まあ、面倒くさいワケですよ…原稿に字を書くのが！そこで、友人に相談した所…このサイトの利用者でした。そして、「せっかくだし、投稿してみてよ！」と言われたので、投稿しました。話の構成がぐちゃぐちゃになるかもしれませんが、途中挫折するかもしれません。でも、もし読んで下さるなら私は嬉しいです♪

さて、B L O O D N I G H T

をどうぞ！

呪縛ゼロ…全テノ始まり

B L O O D N I G H T

呪縛ゼロ

「全テノ始まり」

理科室では、夜中に人体模型が人を襲つ人肉を食べるらしい…

三階の使われてない教室、そこには自殺した男の子の霊が出て、生徒を殺しているらしいよ…

不気味な笑い声がする教室に近付くと、鬼婆に包丁で斬り殺されるって！

噂は絶えない…

人々は求めるから…

危険を犯して…

最高の…

恐怖ヲ…

ソウデシヨ？
ゆうちゃん？

暖かな日差しが眠気を誘う…

春眠暁を覚えず。

「もう、冬だなあ…煉？」

と、至福の一時（居眠り）を邪魔したのは、クラスメートの吉川
ヨシカワユウキ
勇鬼あだ名はユウだ。「バカッ！季節どうこうって問題じゃないん
だよ。」

と言うオレ、霧崎 煉
キリサキレン
は反論（？）した。

「問題じゃないよ…冬なのに思いつき春眠で春が入ってるし！」

ちえつ、細かいA型め！

「A型なめんなよ！日本の約40%A型だぞ…ってお前もA型じゃねーか！」

「オレはA型はA型でもな、それにO型を足して2で割った奴なんだよ！」

「ああ、僕が本気になったのがバ力だった…」

よし、勝った！

…って、くだらないぞ。オレ…

「話を変えよう。」

散々「A型が！」とか言っ…よく話題を自ら変えるよな…

「んで、何の話だよ…」

何で聞いているんだ…オレは。

「この学校には7不思議ならぬ5不思議があるんだ！」

なんだよ、5不思議って…語呂の悪さが一際目立つな。

まあ、オレも知らなくはない。

我が神命^{シメイ}高校には怪奇現象が起こる！って噂が最近出回っている

らしい…

あつ、因みにオレ等は高2だから…
って何に困んでんだ！オレは！アホか、バカか、変態か、ドSか、
はたまたドMか！

…これじゃあ、自分が変態だつてことを認めてるな。
(オレは変態じゃないからなッ！)

「…で、今夜学校に忍び込んでさ」

おっと、下らない事考えている間に話が進んでいたようだ！

「5不思議を全部見てやろうぜ！」
話の内容は大体解った。

今夜、学校にオレ等が忍び込んで5不思議の正体を暴く…
だったっけか？

「んで、正体暴いてどうするんだ？」

「ハハハ、君は話を聞いていなかったようだな！写真だよ、写真！
写真！
写真！？」

「5不思議を撮影して新聞社に送って…」

やれやれ、バカだな。

だが、これが悲劇の幕開けだった…

呪縛ゼロ…全テノ始マリ（後書き）

夏と言えば…花火、TUBE、海水浴、祭り等々あると思います。

でも自分はホラーかとwww

コープスパー。イーの様な、ホラーへの興味はこの時期、果ての無い物となります。

さて、BLOOD NIGHT

プロローグだけでしたが…どうでした？

正直、最初の設定は7不思議だったんですが…

サポーターの方が

「7不思議だとくどい、5不思議ぐらいがツツコミ所もあっていいんじゃないか？」

とのこと…

全く、サポーターの意見をそのまま取り入れる作家で大丈夫なのか？

最初に出てきた

ゆうちゃんとは吉川と関連があるのか？

5不思議の悲劇とは！

次回をお楽しみに！

呪縛1…失ツタモノ（前書き）

作者の一言…

やっと2話目、

小説をいざ書くぞ！となると、頭のアイデアがいつぺんに吹き飛びます。

何とかならないのでしょうか（笑）

呪縛1…失ッタモノ

夜の学校とは不気味なものだ。

「うわ、これがいつも通っている学校か!？」

そう、オレ等は来てしまった。夜の学校探索に…

「うっ、寒気がする…」

おい、言い出しっぺのお前がそんなに平気かよ…? ?

「で、その娘は誰？」

そっぴや、横に見たことあるが女子一人…

「おお、来てくれたか!」

まあ、ユウが呼んだんだろう…

「東野先生！」

へー、東野ってんだ…で、下の名前は先生か…って

「おい！何普通に担任の先生連れてきてんだよ！」

そう、この人…東野叶先生は

「え？先生が連れてってって言ったからだけど？」

オレ以上にアホだ！こいつは！

先生がいたら昇降口にも入れてくれねーよ！

「わー、本当に不気味ね…。何だか楽しみ♪」

おい、あんた先生の役割忘れてないか？

「さ、入ろうか！」

ユウよ…今回ばかりは運が良かったな。

ギィイ、と門が軋む音が依りいつそう

雰囲気醸し出す。

「さて、どこから見なんだ？」

「理科室」

おいおい…

そういう死亡フラグ立つ所は最後にしてくれよ。

《校舎二階理科室前》

「あれ、電気が点かない？」

「あつ、夜は節電の為にブレーカーを切つてあるのよ！」

「へえ、そうなんですか」

でも、何か忘れているような…

「あゝあゝ！！！！」

「どうした煉！」

忘れてた…

「こういう時って絶対に入り口とかが開かなくなって、幽霊に襲われてから出られない！ってパターンがあるんじゃない？」

ホラーゲームのお約束だ。

「考え過ぎだよ！」

「そうよ、怖がらせないでよ！」

「ああ、悪い…少し自重するべきだったな。」

「じゃあ、ここ見たら一度昇降口を見に行くか？」

オレは嫌な予感がしながら、軽く頷いた。

理科室のドアを開ける…

その時既に、「何か」が動き出していた。

「ふうん…結構普通じゃん？」

「そうだな……」

さつきから感じる邪気のような物。
二人は気付かないのか？

「いやああああ！」

と唐突に悲鳴が……
……って

「東野先生、何してんですか……？」

見ると、先生は机の上に乗って震えていた。
まさか、人体模型に足を捕まれたんじゃない！

「ご、ゴキブリ！」

ゴキブリかいっ！

「何だ、先生そんなことでビビって〜可愛いんだから！」

この変態バカが！

例のGがオレの怒りを察したのか、ユウの足に飛びついた。

「どわあああまー！！！」

「あっハハハ！」

でかした、Gよ。

と頭の中で感謝してからちりとりで窓から校庭に放り出した。

「助かったわ…煉君ありがとう」

「笑うことないだろ！煉」

あは（笑）

「もういい！次行くぞ！」

おい、昇降口はどうした！

「あ、笑ったから昇降口のチェックは飛ばすから（笑）」

笑うなコラー！

ちくしょー、人体模型に襲われても助けないからな！

オレの怒りを察したのか、模型がユウの腕を掴んだ！

へ？模型…だと！

気付いた時には遅かった…人体模型は腕をがちり掴んで離さない！

「うわああああ！！！！煉、先生、助けて〜！」

しかし、足がすくんだ。

友達を助きたい！

でも、足が…勝手に理科室から去ろうと動き出してしまった！？

クソっ！何で勝手に動くんだ！

「煉！置いて行かないでくれ！」

足は勝手に動く、

人体模型はケタケタ不気味に笑う。

すまない…ユウ。

完全に理科室から出てしまった！

後ろでは勢いよくダンッ！とドアが閉まった。

「うわあああ！！！！煉、煉、助けて！助けてよ！」

「くッ！開かなくなっている！？」

扉は開かない、空間に固定されているように、動くこともない…

すまない、ユウ…

こんな友達で…

本当にすま…

ベチャ！

へ？何この赤いの…

一瞬、現実から目を逸らした。

でも、先生の声で…

一気に残酷な現実へ引きずり込まれた…

「いやああああ！嘘、嘘よ嘘よ！ユウ君、返事してよユウ君」！

悲しみが胸を引き裂いた。

あいつは、高校で…慣れない環境のオレに…

「何暗い顔してんの？」

ふと、あの時の事を思い出して、感情の制御が出来なくなった。

「うわあああゝああああゝ」

何で？

もう、止めておこつよ！

ゆうちゃん！

「ガああああああアアアア！」

「ちょっと煉君！？れ…くん！…ん！」

意識が薄れる…

何も考えられなくなる。

悪夢を見た。

最悪な悪夢だ。

なあ、知ってるか？この先の洋館には、お化けがでるんだってさ！

止めようよ、ゆうちゃん！

オレは行くからさ、来るなら早く来いよな！

あつ、待つてよ
何で？

何で置いて行くの？
ゆうちゃん！

止めようよ！
そう言ったよね？

酷い憎悪が心を蝕んだ。

「う、うわあああ、あああああ、！」

ゆう…ちゃん？

「た、助けてよ！」

話、聞かなかったゆうちゃんが悪いんだヨ？

じゃアネ…ゆうちゃん。

「うわあ！」

目が覚めた。

夢だった…のかな？

いや、夢じゃない。学校の保健室で寝ていた。

「ユウ…」

ふと、ベッドに付いてる台に目を向けると、メモがあった。

《煉君へ》

いきなり倒れてビックリしちゃった！

先生は、ちよつと倉庫に薬を取りに行きます。
起きてても、無理して動いちゃだめよ？

東野

横には何故か土下座した棒人間がいた。

orz

何故に土下座？

先生はオレを気遣って…

ん？待てよ…

某旧校舎脱出ホラーゲームで、保健室にて黒陰に襲われるんじゃないかな？

「…ヤバいな。ユウは…死んだのだろうか？」

いや、もしかしたら人体模型が倒れて来たのにもつれて倒れただけかもしれない…

ガタッ

後ろで物音がした！？
振り返ってみる…

せ、先生が…

先生が隠し扉で保健室に入ってきた！

「先生ッ！脅かさないでください！」

すると先生は笑いながら

「あはは、ごめんね。だって廊下とか一人で怖かったんだもん！」

やれやれ…

じゃ、保健室から出ますかな！

「あれ、先生？ドア…開かないんですけど？」

更なる呪縛へ…

（続く）

呪縛1…失ツタモノ（後書き）

さて、2話どうでした？

早くも一人死んじゃって？…この後の展開はどうなることやら。

ホラーはやっぱり理科室で人体模型ですね（笑）

呪縛2…新タナキヨウフ（前書き）

さて、3話目です。

キャラがさつさと一人死んでしまっで、引きずっている人も…いいな
いか。（笑）

呪縛2…新タナキョウフ

「煉君、今何て？」

何て？じゃなくてさ開かないんよ。

「言葉通りの意味です」

そう、開かないのだ。某旧校舎脱出ホラーの如く、空間にガッチリ固定された様に全く動かない…

「困ったな、ハハ…」

顔は笑って無い。

現実から目を逸らしたいから。

「ひいやあああー！！！！」

先生ッ！またゴキブリか？

そう思って振り返ると…

「ヴヴヴ…」

コープス。ーティー か！

そんなツツコミを入れている場合ではない！

「先生ッ！早く逃げて！」

て、いねええええ！

先生は隠し扉を使って生徒を見捨てた…

マジかよ…

主人公死亡フラグって…

「おい、そこのお前」

考えて見れば短い人生だったな…

「おい、お前！」

「つて、わあああつ！」

そこには、全く知らぬ少年がいた…

「全く、人の話を無視するな」

と、少年はいきなり落ち着きを取り戻して言った。

「お前、自分の身に何があつたか理解しているのか？」

え…と、ホラーゲーム展開？死亡フラグ？
待てよ、これは解答次第で即死って事が…

「呪縛だ」

「へー、怖い（笑）」

「完全にバカにしてるな」

だって、信じたくないもん。

「お前等はこの学校の呪縛を解かないと出られない」

呪縛ねえ…

「その呪縛は、どうやったら解けるんだ？」

「基本的には封印しか無いが…倒す事で消滅させる事ができる。既に1つ消したようだな…」

不思議はあと4つか…

でも、何で1つ消えたんだ？こいつのことかな…

「分かった、でさ…物理攻撃が効くのか？幽霊だろ？」

「いや、奴らは基本物体に悪霊が取り憑いた奴だ。器が物体なら物理攻撃は通用する」

成る程、ならこの護身用木刀でも大丈夫というワケか…

「オーケー。ありがとな！え」と、…」

「九十九だ。九十九裕也」

「ありがとな！九十九」

そう言ったオレは保健室を出た。

アイツも霊だな…

でも、助けるために閉じ込めるって、人のやることと霊のやることが混じってるぜ…

《事務室前》

あれから先生を探したけど、見当たらない。

ってか、この部屋女のすすり泣く様な声が聞こえるんですけど！

恐る恐る、開けてみようとする…

「開かない、っと」

暫くオレは付近を調べる事にした。

動き始めていた

「アレ」が、近づいていることに気付かずに…

《その頃、保健倉庫》

「あ、ああ…煉君まで、煉君まで助けてあげられなかった!」

「私が、私が守らなきゃいけない生徒なのに!」

私…教師失格ね。

やっとの気力で立ち上がる。

行こう、二人の為に!絶対ここから脱出してみせる!

「ふあつくしゅい!…誰か噂してんのか?」

煉、呑気だな…

「作者は黙ってオレ等をBAD ENDにならないように導けばいいんだよ!」

はいはい、読者に迷惑ですよ?

「どつちがだ!」

《話を戻す…》

「ふう、やっぱり開かないか…」

昇降口と扉は動く気配すら無い…

非力な先生には、開けるなんて不可能に等しいことだった…

《2階校長室前》

「煉君…」

寂しげな声を出しながら歩く…

「ん？校長室ね。中に入れるみたい…」
ガラガラ、と扉が開く音さえ恐ろしく感じる。

その恐怖を煽った。

五月人形が…こつちを見ている！

のは、気のせい。

「ビックリした…」

校長も悪い趣味してるのね…

特に変わった所（五月人形は除く）は無いらしく、
情報は何も手に
入らなかった。

「他の教室にも行こうかな？」

そして、校長室を出ようとした時だった。

ズシッ！

何かが動いた様な…

「……！」

何と、五月人形が刀を持って歩き出したのであった！

「いやあああああ……！」

その叫び声は、学校全体に響き渡った…

赤い、液体が飛び散るのと共に…

《二階図工室前》

「…うん、開かない。」

「ここも、…ふあああっ！眠い。」

煉は、何故呑気…ってかオレの作品の主人公は何故みんな呑気、脱力系キャラ（？）が多いんだ？

「ペットは飼い主に似る、故に主人公は作者に似る！」

黙れや、アホめ。

…何やかんやで図書室前で作者と雑談タイムしている煉。

主人公として、脱出試みるよ！

『いやあああああ！…！』

「先生の声！」

声は三階、今は二階…ダッシュで間に合うか？

「迷わずGO!」

走り出す。

僅かにでも希望を持ちたかったから…

呪縛2…新タナキヨウフ（後書き）

人体模型に五月人形、全部コープスから持って来たネタです。

あつ、でもアレンジは加えますよ？

だってそれじゃパクリですから（笑）

呪縛3…失意ノ底デ

確かに3階から声が聞こえた…

が、読者様方…

皆さんは、覚えているだろうか？

前回、「二階」にある校長室で先生が悲鳴を上げて終了したことを…

そう、悲鳴を聞いたのは先生の悲鳴の30分程前…

「文章だと、ミスを後で訂正しやすいからいいよな」

黙れ、作者の特権だ！アーツハツハツハ！

「悪役だ、この人悪役キャラだ！」

Σ（。□。；）

黙らっしゃい、全てお前の勘違いだ！

そんなこんなで…

《先生の悲鳴から30分程前…》

「いい加減、何か他の手掛かりとか、アイテムがあっても言い頃合
い何だけどなあゝ」

何基準だよ…

「うう、ユウ…そういや、秘策がどうとかって言っていたな…秘策
って何だ？」

「嫌ああ！！！！」

「先生の声！」

三階からする声は、先生のものであろう…

でも、少し高めな声だったな…

《三階、音楽室》

「此処だな…」

中に入ろうと、扉に手を掛けて…

「いゝやゝあゝ ああああ！ゴキブリiiiiiii！！！！」

あれ、デジャヴった？

「ちよつ、まつ、て来るな！」

ガララッ！

と、扉を思いつ切り開けた人物は…

「鹿野！」

そう、ユウと仲のよい女子…鹿野 奈子 （カノ ナコ）
であった。

「あつ…煉じゃん。こんなとこで何して…って嫌ああ！」

うるさいからゴキブリを蹴飛ばして、気絶させた。

「お前は何してんだよ？」

と、聞きながらゴキブリ被害の多い学校だなと思ったのであった。

「ユウに頼まれたのよ、合図するまで定位置で待機してくれって」

「で、合図はいつ？」

「合図の時に、先生の悲鳴みたいのが聞こえたけど…」

「な、何で…それじゃ！」

それじゃあ、ユウはまだ…

「キャアアアアア！！！」

「な、何！？」

「今度こそ、先生の声だ！」

《二階、校長室》

「嫌、来ないで…こナイでヨオオオ！」

ズシッ、ズシッ、

先生の言葉に耳を傾けず、一歩ずつ近寄る化け物…

右手には、赤黒く染まった刀が握られていた…

化け物は、それを…

「勝手に殺すんじゃない！」

「ユウ…何独り言言ってるのさ？」

「ああ、いや…何でもねえ、何でもねえ！」

「全く、お前も悪趣味だな…自分が人体模型に殺されたと思いつま
すなんて…」

「フッフ、夏の旅行の演出はこれでバツチリ…」

「いやアアアアあ！」

「おい、ユウ…お前他にも役者雇ったのか…？」

「まさか、資金不足でお前一人だけ…って」

「「ヤバいじゃん！」」

「と、ととと取りあえず行くぞ！」

「おい、ユウ！」

ユウよ…状況を説明してやる。

『斯く斯く然々…』

「はい、反省します。」

あろう事が、作者は登場キャラに干渉してしまった！

「まあ、結構いい驚きっぷりだったんだな…」

反省しなさい！

わざわざ、煉の過去に何かあった風のストーリーを書いたのは何だったんだ…

「作者がメタ発言とは…時代も変わったな。」

うっせ！ペテン師は引っ込んでろ！

結局、嘘から出た真…

失意の底に突き落とされた二人の気もしらず、失意の底に突き落とした二人は、深く反省するのであった…

《校長室》

「先生ッ！」

煉が校長室に全力疾走したため、体力の無い鹿野は息を切らして追いついた。

「はや…いよ。あゝ疲れた。」

へたつと座り込む鹿野。

「先生…」

そこに先生の姿は無く、代わりに赤黒いシミが…

大量にあつた。

更なる呪縛へ…

呪縛3…失意ノ底デ（後書き）

まさかのユウ生存ルート…

しかも、どさくさに紛れて新キャラ出てるし…

うぬぬ、続きをどう書くべきか…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0458w/>

BLOOD NIGHT

2011年10月9日15時04分発行